
図書館と日本語クラスの連携： 情報リテラシー支援を通して 図書館の言語教育現場への 参加の試み (BRINGING THE LIBRARY INTO THE JAPANESE LANGUAGE CLASSROOM: ENHANCING STUDENTS' INFORMATION LITERACY)

AKIKO HIRATSUKA (平塚 昭子)
University of Technology Sydney (NSW)

HIROFUMI YADA (矢田 浩文)
The Japan Foundation, Sydney (NSW)

SHOKO ONO (大野 唱子)
University of Technology Sydney (NSW)

ABSTRACT

This report describes the information literacy support given to students of intermediate and advanced Japanese courses at the University of Technology Sydney, with the cooperation of the library at The Japan Foundation, Sydney. Students were instructed how to effectively use selected digital information services to find appropriate Japanese literature at information literacy sessions. The post-session survey shows that students gave favourable assessments of the session content, noting that it was of benefit to their course assignments. This report concludes that the information literacy session helped students better locate Japanese literature to refer to in their assignments. Furthermore, the outcomes achieved from out-of-classroom-style instructions prompted students to study autonomously. Since a considerable number of the students experienced difficulties finding good search keywords due to their limited vocabulary, methods to help students find more effective keywords should be investigated further.

1. はじめに

本稿では、国際交流基金シドニー日本文化センター（以下 JPF Sydney）の図書館員とシドニー工科大学（以下 UTS）中級・上級日本語コースの教師が協働で実施した学習者への情報リテラシー支援「図書館セッション」についての取り組みを紹介する。このセッションは、2018年に UTS の計4クラスで授業の1コマ（12時間）を充てて実施した。学習者である UTS の学生が、日本文化や社会事情をリサーチする際、新聞・雑誌記事やウェブサイトをオンライン上で読むことを支援するのが目的である。本稿では、情報リテラシーの観点から、図書館と日本語の教室が連携して言語教育を支援する例を紹介し、図書館の言語教育現場への参加の可能性を示唆したい。

2. 背景

2.1. 情報リテラシー

情報リテラシーについては、従来から図書館がその教育的役割を大きく担ってきた。Bordonaro (2013) はアメリカの大学図書館で看過されがちな第二言語学習者を利用者として考慮し、ニーズを見極めることで、適切な支援が可能であることを示している。情報リテラシーは、自律学習に基づく生涯学習の基礎を支える能力ととらえられる (Bundy 2004)。一般にアクセス可能な情報が量・手段ともに増加の一途をたどる現代において、情報格差が拡大している (梅田 2005) ことと同時に、質が保証されない情報の増加も懸念される。Hock (2007) は外国語教育において、教師が言語や文化の知識を与えるだけでなく、学習者自らが探索・評価選択した情報を自身の技能や知識へと転化させる能力育成の必要性を主張し、情報リテラシー指導を意識的に組み入れることを提案している。高橋 (2012) はアメリカの大学で初級日本語学習者クラスにおいて情報リテラシー指導のためのセッションを実施し、自律学習へつなげる可能性を示唆している。

今回 JPF Sydney と UTS との協働を促すきっかけとなったのは、双方が大学で日本語を学ぶ学生に、コース終了後も学習を続け、日本への興味・関わりを保持してもらいたいという希望を強く持っていたことがある。そのため、生涯学習の要である学習者の自律性を促進するためにも、情報リテラシーの重要性を確認しあつた。梅田 (2005) が、生涯学習について「自分の人生を主体的に生きるために、他者に依存した情報収集ではなく、自分に必要な情報を自分の手で取ることが重要なのだという考えに立脚した学びである。」(梅田 2005: 62) と述べるように、自律的に情報を取り入れるためのサポートは、長期的展望にのっとり学習者を支援していくことにおいて意義があるだろう。教育の現場では、カリキュラムの変更など大きな改革は難しいのが現状であるが、本稿で紹介する単発のセッション¹は、比較的实现しやすい事例ではないだろうか。

2.2. UTS中級・上級日本語コースと課題

UTS の中級コース 2クラスと、上級コース 2クラスを対象に支援を実施した。どのコースでもリサーチ課題が成績評価に組み込まれている。中級コースでは、使用教科書²に沿ったトピックで、小グループディスカッション、またはグループリサーチの発表を行う。上級コースは、コンテンツに焦点を当てた授業を展開しており、学期ごとにテーマも異なる。対象となった上級コースは「Japanese films and pop culture」と「Japanese language and identity」である。両コースとも学生がテーマに合うトピックを自由に選び、学期最後に小論文にまとめ、口頭発表も行う。

1 実施にあたっては、国際交流基金関西支部の報告 (浜口・畠中 2013) を参照している。特に第二言語話者を考慮したハンドアウトの作成や、参加者が事前に検索語を選んでおくなど、参考になる点が多かった。

2 岡まゆみ他 (2009) 『上級へのとびら』くろしお出版

学生はインターネットを日々利用しており、教師からの指示がなくても教室内外で多くのアプリ、辞書・翻訳機能、学習支援ツールなどを使用しているが、学生からはリサーチする上で適切な資料を探し出し、読みこなすのは困難だという声が上がっていた。一方教師は学生が参照する情報や文献に、信憑性が疑わしいデータやネット上にあふれている個人の偏った意見が使われていることに懸念を感じていた。つまり学習言語である日本語で、目的に合った適切な情報を見つけ出し、その質を見極めるためには、ツールを利用するスキルに留まらない、言語力・読解力・批判的判断力までに及ぶ高度な総合的能力が必要である。そこで、以前から授業の一環として行なっていた図書館訪問を発展させ、より効果的な支援を行いたいと考えた。

2.3. これまでの JPF Sydney 図書館の日本語履修大学生への支援と問題点

JPF Sydney 図書館は日本語教育と日本文化・社会事情を取り扱う約18,000点のコレクションを有し、これまでも近隣大学で日本語を履修する学生に対する支援として図書館ガイダンスとレファレンスサービスを行ってきた。

図書館ガイダンスでは、まず JPF Sydney 図書館コレクション概要と目録使用について説明し、続いてオーストラリア国内の他図書館の蔵書を横断検索できる Trove³ やインターネット上で公開している日本語学術文献を探す CiNii Articles⁴ を紹介するのが、これまで大学生向ガイダンスの定番であったが、学生からの反応は鈍かった。情報リテラシーに焦点を当てたセッションを行うにあたり UTS の教師と意見を交換し合い、次の三つの問題を確認した。

- ・ガイダンスで紹介した目録や情報サービスでは、文章中の日本語難易度で検索結果をフィルターできない。学生は数ある検索結果の中から、自分が読みこなせる文献を見つける作業に疲れてしまうのではないか。
- ・Google など一般検索エンジンの検索結果から、情報の質まで考慮して情報を選び取るのは、学生の限られた日本語読解力と背景知識では難しいと考えられる。そうであれば、一般検索エンジンに代わる情報サービス、特に収録されている情報の主題や難易度が限定されていて、課題のテーマに合致するサービスを学生に提示すべきではないか。
- ・どのような情報検索であっても、適切な検索語を選び出し、そこから最適な検索結果を導き出す行為には代わりはない。そこでは満足できる検索結果を得るまで、検索語の見直し・再検索を繰り返すのだが、学生が日本語で類義語・関連語を知っているとは限らない。再検索のための類義語・関連語を効率的に知る方法はないか。

一方レファレンスサービスは、学生が個々に来館し、図書館員に自身の情報検索ニーズを伝え、情報検索の支援を得るパーソナルなサービスであるが、教育的見地から二つの問題点があることを確認した。

- ・図書館員が検索ツールの選定、検索語の選定・見直し、検索結果の評価など情報リテラシースキルに関わる部分を代行することが多いので、学生自身にスキル養成の機会を与えないことになる。
- ・応対する図書館員や状況によって、学生が受ける支援の質・量が変わってくる。学生自身の力量と関係ない要素が提出課題の出来不出来を左右するのは、評価の不公平につながる。

3 <https://trove.nla.gov.au/>

4 <https://ci.nii.ac.jp/>

3. 大学生の日本語学習者に向けた情報リテラシー支援の実際

3.1. 2018年前期の情報リテラシー支援

これまでの情報リテラシー支援方法での問題点を共有した後は、具体的にどの程度の支援を今回行うのかを確認した。以下は支援の方向性と実際に 2018年前期に行った情報リテラシー支援の内容である。

- 課題のテーマに直結したガイダンスを行う。

図書館目録や Trove など、課題のテーマに関係なく汎用的に使う情報サービスに興味を示す学生は少数であった。学生の日本語力を補うため、テーマに沿った検索語や書架分類番号をハンドアウトで提示した。また中級程度で読める図書のディスプレイを行った。課題のテーマを事前に話し合っておくことで、ガイダンス中に全学生に均一な情報提供が可能となった。

- 信頼するに足る記事を使用することを推奨する。

著者、出版社、刊行メディアなどの書誌要素も記事の信頼性を計る要素であるが、日本語資料の背景知識に乏しい学習者には判断が難しい。今回上級の学習テーマに「Japanese films and pop culture」があったので、権威ある映画批評誌『キネマ旬報』を紹介した。さらに、デジタルコピーのないキネマ旬報は CiNii Articles で記事単位の書誌情報を検索後、書架にある収録号・掲載ページを探すという図書館利用プロセスの原点を実例で説明できた。

- アプリなどコンピュータ支援による課題遂行を推奨する。ポップアップ辞書『Rikaikun』⁵、ふりがな付与『ひらひらのひらがなめがね』⁶、語注自動作成『リーディングチュウ太』⁷を紹介した。支援ツールの使用・不使用は個々の学生の判断に委ねたが、Google Translate で英文和訳して課題執筆することは禁じた。

3.2. 2018年後期の情報リテラシー支援

前期ガイダンス後の学生の反応から、学生は課題執筆に直結する情報リテラシースキルを習得することに前向きであるが、日本語でのオンライン検索のためには、言語能力を補う戦略が必要だと感じた。そこで後期は一步進んで、読解支援ツールや信頼性がある情報サービスを実際に利用する演習を取り入れて、躓いている学生をその場で支援することにした。図書館員が事前に情報サービスを選定、収録情報の内容と質、読解支援ツールとの相性を教師に説明し、了承を得ておいた。限られた演習時間を学生自身の課題テーマに使うために、テーマと検索キーワード設定を演習日までの宿題にしておいた。以下、使用した情報サービスである。

- コトバンク⁸

無料オンライン事典サイト。著名な出版社が刊行した事典 120タイトル以上を横断検索できる。主題についての正しい背景知識や関連語を見つけることがリサーチの取り掛かりには必要で、匿名編集ではない権威ある事典を参照させるため取り上げた。主な収録事典は以下の通り『世界大百科事典 第2版 (平凡社)』『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典 (ブリタニカ・ジャパン)』『日本大百科全書 (小学館)』『知恵蔵 (朝日新聞出版)』『デジタル版 日本人名大辞典+Plus (講談社)』

5 <https://chrome.google.com/webstore/detail/rikaikun/jipdnfibhldikgcjhfnomkfpcebammhp>

6 <http://www.hiragana.jp/en/>

7 <http://language.tiu.ac.jp/>

8 <https://kotobank.jp/>

- リサーチ・リサーチ⁹

日本で行われた意識・行動調査結果を検索できる無料サイト。サイト運営者が調査結果をすべてタグ付で要約しているので、学生は平易な要約を読んで情報の取捨選択を効率的にできる。調査元のレポート全文も要約にあるリンクからアクセス可能。一般検索エンジンでも数値を伴う調査情報は探すことはできるが、検索結果にノイズが多いので今回このサイトを取り上げた。

- Factiva¹⁰

Dow Jones 社が運営するビジネス情報データベースで、UTS 図書館の利用ライセンスでログインした。世界各国の新聞記事を収録し、日本語新聞も全国紙のみならず、スポーツ紙、地方紙、業界専門紙など多数収録。また『週刊東洋経済』といったビジネス雑誌も収録。総務省情報通信政策研究所が行った調査¹¹によると、新聞記事は他のメディアに発表された記事と比べて信頼性があると考えられており、また機能面でも Factiva は横断検索で複数の新聞から記事を効率的に収集できることから今回取り上げた。新聞記事は上級履修者の日本語読解力に相応しい文章難易度と教師が判断したので、特に上級コースの演習では Factiva に時間を割いた。

演習では、これらの情報サービスを検索し、前期で紹介した読解支援ツールを併用して記事を読むことを体験してもらった。また演習内容を後で復習できるようにマニュアル「Workshop: Find Japanese newspaper articles, read them with computer assisted tools」(資料1)を学生に配布した。

4. アンケート結果と分析

前期・後期とも、セッションに参加した学生を対象にアンケート調査¹²を行った。

4.1 前期

前期は中級クラス・上級クラスがそれぞれ教師とともに JPF Sydney 図書館を訪問、セッションを行った。

4.1.1 前期 中級 (受講者数:47人)

前期は図書館訪問の後に、中級・上級クラスとも自由記述形式でアンケートを施行した。セッションの効果について問うものであったが、中級クラスでは「色々なリンクなどの情報が役に立った」というセッションの有用性を指摘したコメントの他に「日本語をクラスの外で聞く機会がないので、ガイダンスが日本語で行われたのはとてもよかった」また「セッションのあとでも、自分のトピックに関連した資料を見つけられなかった」というコメントが見られた(回答は資料2を参照のこと)。

ここで特筆すべきは、学生の関心分野で図書館員が予め選書し、サンプルとしてディスプレイしたことであろう。セッション後、学生がめいめいサンプル図書を手に取り自主的に話し合っており、課題遂行に向けてのブレインストーミングに繋がった。図書館を利用した自律学習の一步とみてよい。

9 <https://www.lisalisa50.com/>

10 <https://www.dowjones.com/products/factiva/>

11 総務省情報通信政策研究所 (2016) 『平成 27 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査: 報告書』

12 アンケート調査は UTS Human Research Ethics Committee の承認を得て実施した (承認番号: ETH18-2685)。

4.1.2 前期 上級 (受講者数:18人)

一方、上級でも「クラス外活動で、学習への動機が一層高まった」と教室外での活動の効果を指摘する回答が見られた。また「一人で文献を探すのは容易ではない。分からない漢字が多すぎるため。セッションが文献検索に大いに役立った」という回答もあった(資料3)。

また上級クラスに課されるリサーチプロジェクトにおいて、18名中6名がセッションで紹介された文献やオンライン資料を引用していた。残りの学生のプロジェクトにはセッションで学んだことが反映されていなかったのは、セッションは学生にとって、有用ではあるものの実用的ではないのかも知れない。後期には更なる工夫を凝らす必要があると感じられた。

4.2 後期

後期は図書館訪問型のセッションではなく、JPF Sydney 図書館員に協力を仰ぎ、大学のコンピューターラボにてセッションを実施した(詳細は3.2を参照)。

セッション事前アンケートでは、中級・上級ともに言語を特定しない情報リテラシー能力を自己診断してもらった。セッション事後アンケートでは、セッションの有用性や効果について選択式回答で評価してもらい、自由記述コメント欄を加えた(資料4)。

4.2.1 事前アンケート結果 中級(受講者数:35人)、上級(同:18人)

中級・上級とも、90%以上の学生が日本語を使用してのリサーチを「問題なく敢行できる」とする一方、「日本語で読みながらのリサーチ」には「あまり自信がない」と回答している。また同数の学生が、リサーチに際し、「インターネットで得られるニュース記事や雑誌、論文や書籍を参考にしている」と回答した。

中級では「リサーチ時に何が一番難しいと感じているか」という問いに対し、「漢字」「キーワードの発見」「時間がかかりすぎる」「時間の使い方」などの回答が挙がった。上級でも「語彙を調べるのに時間がかかる」「漢字や専門用語の読解に時間が取られる」という意見が圧倒的であった。

4.2.2 セッション後のアンケート結果と分析

選択式の質問「セッションで得たリサーチスキルは、自分のリサーチに活かせるか」では、中級では75%の学生が「活かせる」としたのに対し、上級では100%が「活かせる」と回答している。また「セッションの後では、日本語及び日本文化を学ぶ際に、図書館の蔵書を効果的に利用できそうだ」というコメントに関しては中級では「非常にそう思う」が37.5%、上級では72.7%、とレベルによって回答に差があった。これは日本語能力の差だけではなく、コースで要求されている課題の差からくる印象ではないかと推察する(資料5)。

一方、中級の自由記述式のコメントには「セッションのおかげで、これまで日本語の記事を探せなかったのに、方法が分かって本当によかった。グーグルはターゲットが広すぎて使いこなせなかったので」「丁寧にリサーチのやり方を教わったので、データベースをより効果的に使えそうだ」また「信頼できる情報源の見つけ方と読み方がわかって有用だった」「情報へのアプローチの仕方を再考するよい機会となった」とあった。課題遂行にあたり目的に適った情報を見つけ出し、その質を見極めるスキルの向上に繋がる活動であったと言えよう(資料6)。

上級のコメントでは具体的に「Factiva が役立ちそうだ」「Rikaikun の導入が有難かった」とツールについての言及が目立った(資料7)。

その一方で、中級、上級に共通したコメントに「キーワードが探しきれなかった」「もっと絞り込んだリサーチができるようなセッションを」など、数名の学生にとっては不十分なセッションであったことも判明した。次回の課題としたい。

5. 結論

今回実施した「図書館セッション」は、以下の点で非常に有意義であったと言える。

- コースの課題を遂行する前に、クラスメート、教師、図書館員と協働でインターネットを使用した効果的なリサーチ方法を学ぶことにより、学生が課題テーマを絞りやすくなり、入手したい日本語文献をイメージしやすくなった。
- 日本語での情報収集にあたり、学生には情報リテラシーの支援が必要であることが改めて確認された。必要な支援を得ることで信頼性ある多様な日本語文献に触れることから、豊かなりサーチに結実すると考えられる。
- 日本語クラスと JPF Sydney 図書館の連携により、課外活動が可能になり、教室外で日本語でのガイダンスを経験し、自主的に文献を調べるなど、学生の自律学習を促す機会になった。

未解決の問題としては、学生が日本語での検索語選出に苦労していた点で、プロジェクトのトピックによっては、百科事典等使用しても検索結果につながる類義語・関連語を見つけ出せなかった点、それによって得られた情報量に差が出たことが挙げられるだろう。今後どのようなアプローチが効果的か、引き続き検討の余地があると考ええる。

今回の協働セッションにより、学生の日本語情報リテラシー能力が向上し、さらなる日本語学習への動機に結び付くことが期待されている。また、大学在学中のみならず生涯学習の過程においても活用されればと願っている。

謝辞

本プロジェクトの実施、本稿の執筆にあたり、UTS の平井泰氏、JPF Sydney の齊藤真実氏にご協力、ご助言をいただきました。ここに記し、感謝を申し上げます。

資料1: マニュアル Workshop: Find Japanese newspaper articles, read them with computer assisted tools.

This resource is provided as a separate PDF file for download from the NSJLE 2018 Proceedings website.

資料2: 2018年前期 中級 セッション後のアンケート (記述式回答より抜粋)

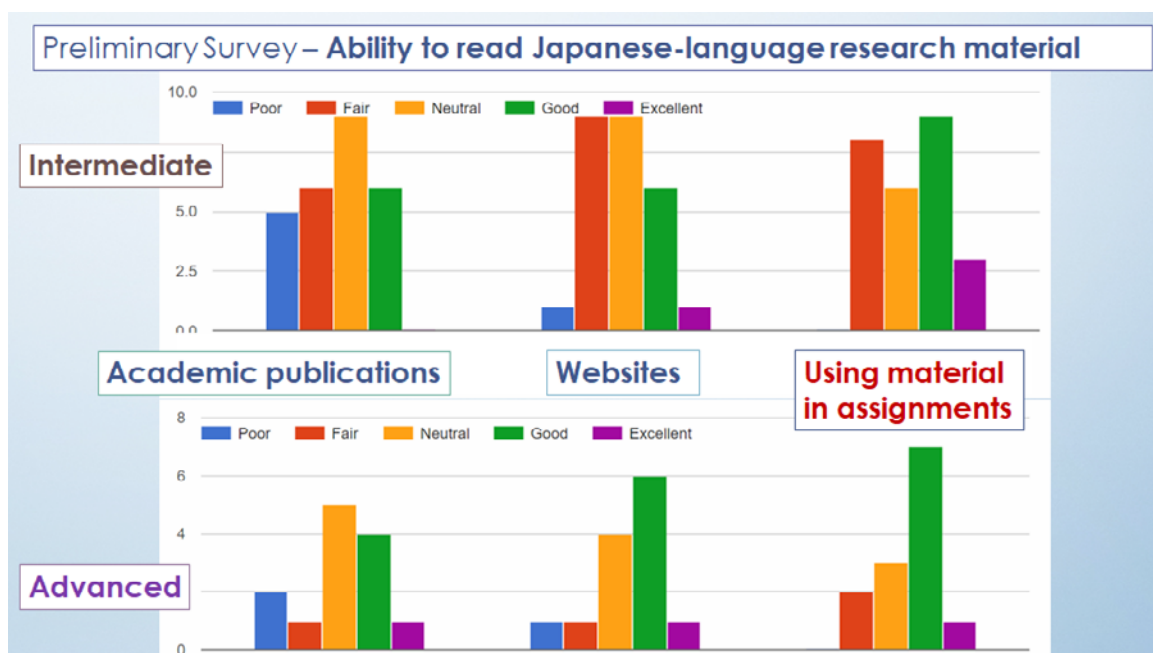
- Valuable resources were introduced.
- The links that were introduced on the slides look useful.
- There were some new discoveries for me in the use of the Library catalogue.
- It was great to be able to hear a Japanese librarian giving us guidance, as I don't have any opportunity to listen to Japanese aside from hearing my teachers at university.
- All the books that were displayed for us today were related to our research, which was helpful.
- I could not find any resources about Japanese baseball, which is my topic.

資料3: 2018年前期 上級 セッション後のアンケート (記述式回答より抜粋)

- The library seems to contain a lot of books, which I should find useful for my research.
- It was really good to find out that the library has many magazines and DVDs. I would like to spend more time there to look for what I want.
- Having a short excursion to the place itself was really uplifting and showed me opportunities I can make the most of.
- I actually came to the library in the previous summer holidays to look for Japanese fiction to read. I could not find any though, as they seemed to have a lot of kanji that I could not understand. After today's visit, however, I now feel that I can find something suitable for my level of Japanese.
- The library is clean and seems to contain a lot of books, but I am not sure yet about online searching/referencing.

資料4:

2018年後期中級・上級 事前アンケート (選択式回答の結果)



2018年後期中級 事前アンケート (記述式回答より抜粋)

What are problems or difficulties you have experienced conducting research in Japanese?

- Too many/too few results, hard to find relevant results sometimes
- Finding relevant articles for the topic I chose, finding articles that are recent and not too old
- The lack of ability to read Japanese articles due to kanji and trouble understanding some websites.
- Japanese may be too high advanced for my level, or there is too much kanji I do not know so my understanding of the reading may be at a very low level.
- When there's a lot of unknown vocabulary, it gets tedious to read.
- Finding the right keywords, using the right databases, filtering relevant information
- Amount of time taken to read through articles

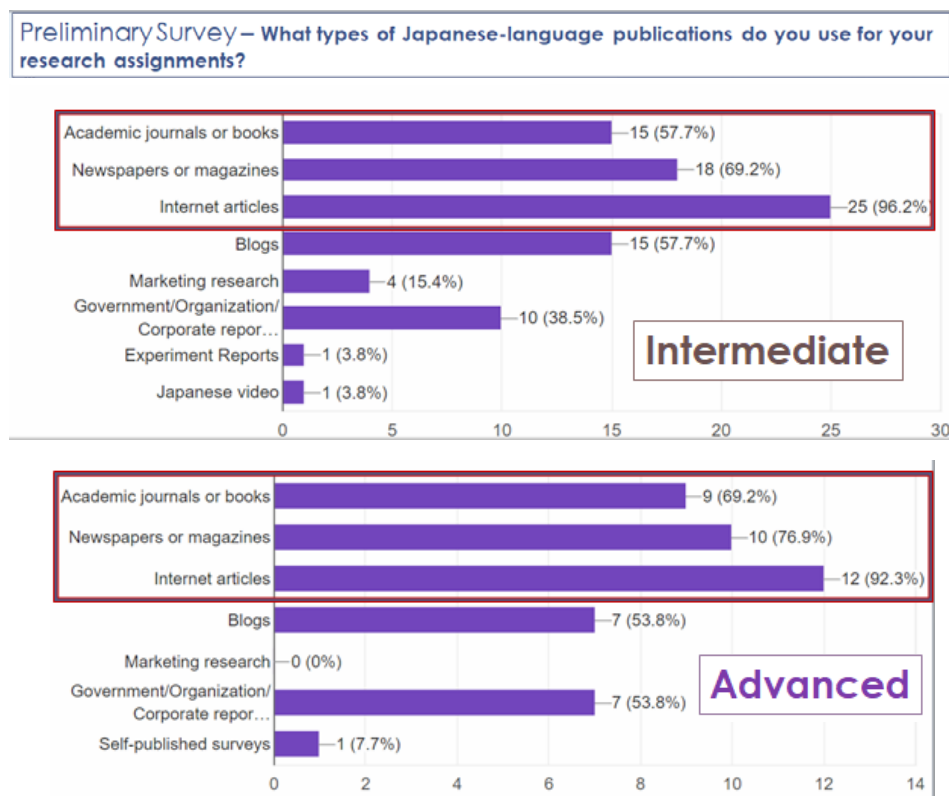
2018年後期 上級 事前アンケート (記述式回答より抜粋)

What are problems or difficulties you have experienced conducting research in Japanese?

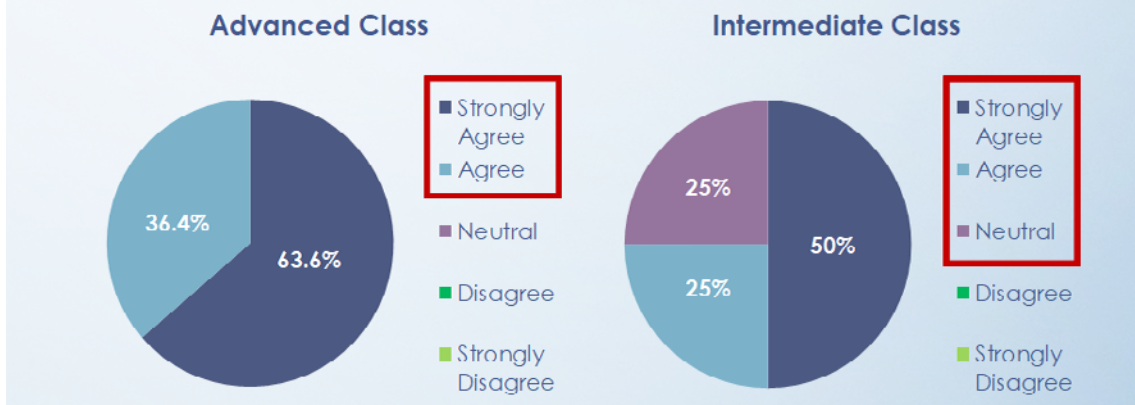
- The sheer intensity of grammar and vocabulary in more academic articles makes it a very time consuming process. Firstly, you must be able to read everything, then understand everything by its isolated parts, then understand the text as a whole, and then understand the article as a synthesised text.
- It takes longer to research and checking everything and making sure you understand everything
- Reading kanji, understanding technical vocabs, and finding the right resources
- Finding a variety in sources of relevant data.
- Getting a rough idea whether an article is relevant before putting the effort into reading and translating the whole thing. It's discouraging when you finally understand it only to find it is not relevant.

資料5:

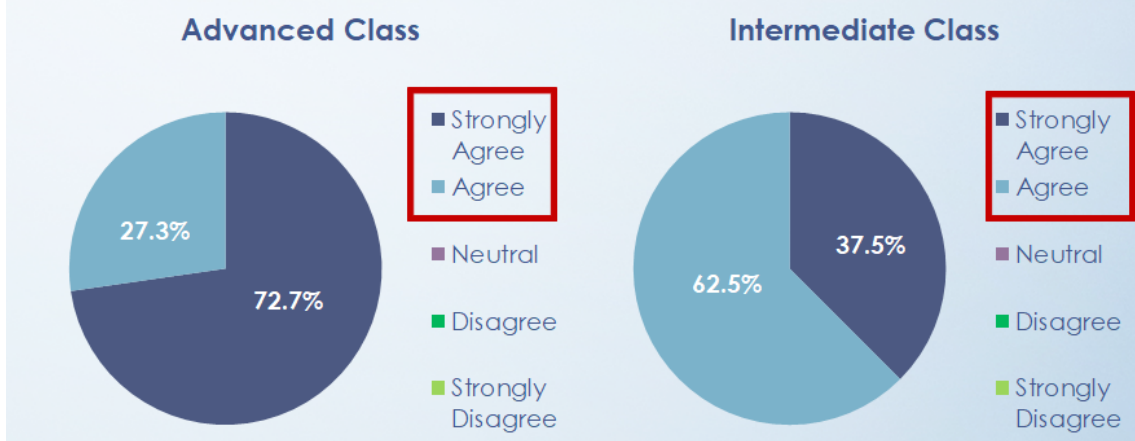
2018年後期中級・上級 セッション後のアンケート (選択式回答の結果)



The skills acquired in the session will be useful when completing my research assignments in the Japanese course



The session will help me use library resources more effectively to study Japanese language and culture



資料6: 2018年後期中級 セッション後のアンケート (記述式回答より抜粋)

- It was a productive and helpful session.
- I thought it was very informative and helpful as previously I had no idea how to research for Japanese articles or resources, and the ones on Google were too advanced (in their use of Japanese) for me.
- The library session was well structured and informative.
- Showing us how to search for resources step-by-step helped with better understanding how to use Japanese search engines.
- Learning not only websites we could go to, but pop ups we could use to view the meanings of Japanese words on any website as we were browsing.
- Provided information on how to find credible Japanese sources and ways to read them
- Explanation on how to use search engine and keywords. Also, their strengths and weaknesses.
- It was useful to see demonstration of many different websites in regards to the Japanese research task.
- It made me reconsider how I should approach looking for sources.
- The sources were not comprehensive and did not cover a variety of topics one might want to research

資料7: 2018年後期 上級 セッション後のアンケート (記述式回答より抜粋)

- Useful to know how to use keyword searches and sort through articles
- Showing different resources I wasn't aware of before was inspiring.
- The handouts, the translation tools, and Factiva will be quite useful.
- Introduction of the online resources like *rikaikun* was much appreciated.
- It was informative and encouraged me to use Japanese resources (newspaper) for my assignment.
- Thank you for taking the time to explain these resources, if they weren't introduced today I probably would not have used them.
- Didn't really cover how to generate key words.
- It was useful but needed to be more tailored to specific types of research

参考文献

-
- 梅田康子 (2005) 「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割—学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る—」『愛知大学 言語と文化』第12号、59-77
-
- 岡まゆみ 他 (2009) 『上級へのとびら - コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語 TOBIRA Gateway to Advanced Japanese Learning Through Content and Multimedia』くろしお出版
-
- 高橋温子 (2012) 「情報リテラシー教育を取り入れた初級日本語コースカリキュラムの作成と実践報告」『大学図書館研究』第96号、1-9
-
- 浜口美由紀・畠中朋子 (2013) 「日本語学習者に向けた情報リテラシー教育—日本研究に役立つ情報検索ガイド実践報告—」『国際交流基金 日本語教育紀要』第9号、159-166
-
- 総務省情報通信政策研究所 (2016) 「平成27年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査: 報告書」75
-
- Bordonaro, K. 2013. *The Intersection of Library Learning and Second-Language Learning: Theory and Practice*. Lanham MD: Rowman & Littlefield Publishers.
-
- Bundy, A. 2004. *Australian and New Zealand Information Literacy Framework: Principles, Standards and Practice*. 2nd ed. Adelaide: ANZIL. Accessed 25 August, 2018. <http://archive2010.caul.edu.au/caul-programs/information-literacy/publications>.
-
- Hock, L. 2007. "Information Literacy across the German-Studies Curriculum." *Die Unterrichtspraxis/Teaching German*, 40 (1): 46-56.